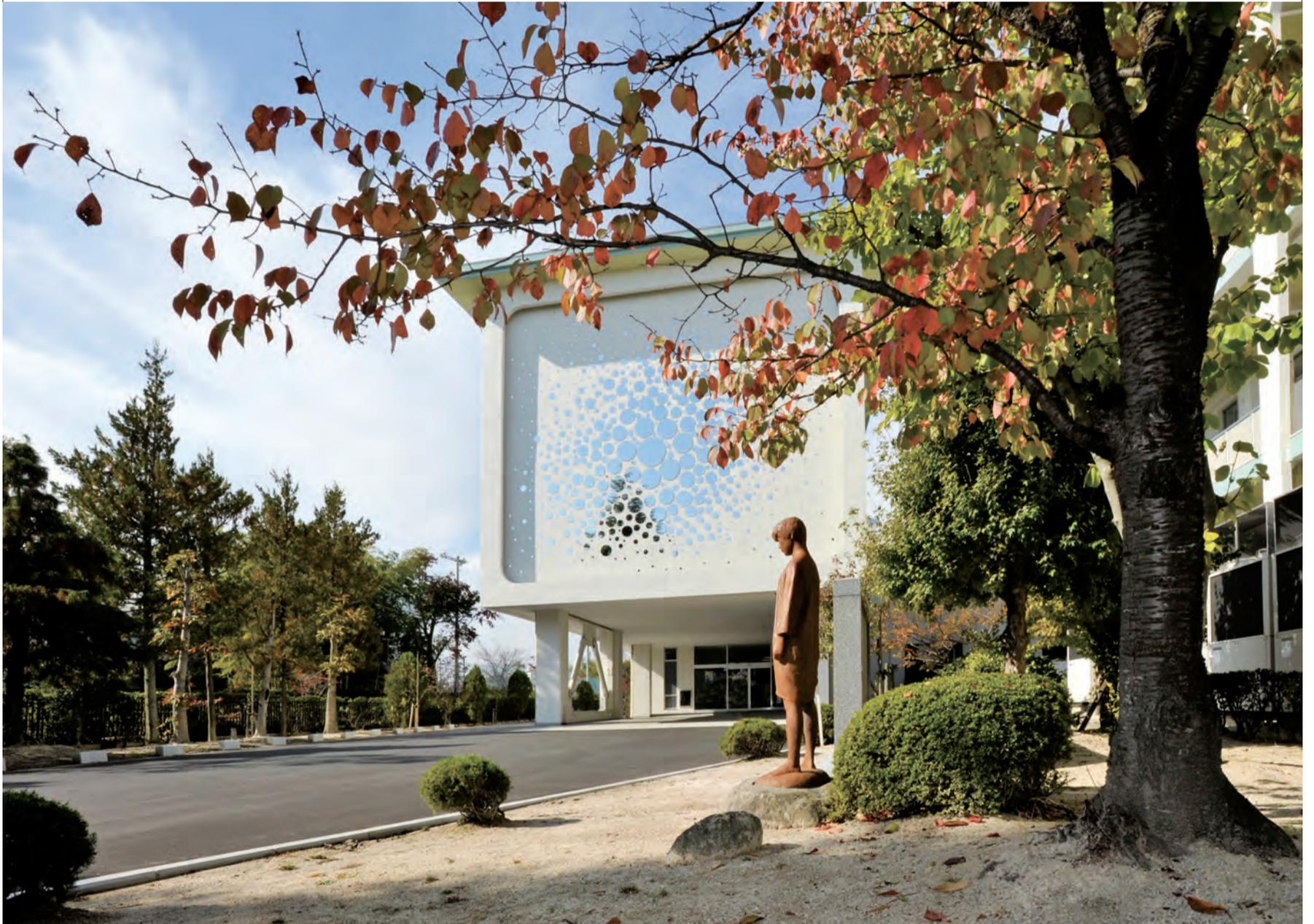


開成の杜

第90号 ●2012年12月10日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



木の葉が散り始めた附属高校正面

(撮影 山口郁生)

『雪の便りがちらほらと届くようになりました』



理事長・学園長 関口 修

大雨や大洪水、そして暑い日々が続いた夏の後の短い秋に紅葉の美しさを水鏡に映す時もなく、雪の便りが届けるようになりました。

師走です。今年も残り少なくなりました。日に日に日暮れが早くなり、やがて冬至となり、位置も変わっています。時の流れは速いものですね。生徒の皆さんも、同じ様に思っているのかなと自信無げに考えているのは、私が年若いて来た証拠なのかも知れません。若い頃には私も、雪が積もり、山に行くのが待たれたものでした。

凍てつく冬の雪景色は厳しさのなかにも、人間を鍛える美しさを見逃すことは出来ません。小春日和の温もりは厳しさに向う小休止なのかも知れません。厳しい冬があればこそ卒業の春はひと際、柔らかなく美しい花々を咲かせる事でしょう。このような自然の摂理が開成の杜には備わっています。開成の木々は美しい花を咲かせるために寒さの助けを借りて葉を落とすのと同様に、皆々一人一人が援け合

って生きることを教えています。援け合う心が無ければ、人も木々も育ちませんし、厳しさが無ければ美しい花は咲かないでしょう。私たちは開成の杜に援け合う心や人を尊重することの大切さを学んでいます。尊重することは愛の本質でもあるのです。他人に向って敵愾心を持って他人は其れに気が付きません。樵さんは木を伐る前に気に御神酒を備えて敬意を表し、木に許しを請います。即ち愛であり、尊敬です。謝る心と許す心の調和にこそ他人を育む基礎が築かれるのではないのでしょうか。凍てつき枯れた様な木々にこそ無言の愛が育まれていくことを学びましょう。

冬至南瓜に柚子湯は古来からの仕来りながらも、その知恵に感動します。そしてその日から、僅かながら一日の光が長くなります。クリスマスも楽しいひとこまかも知れませんが、先人が冬至に込めた知恵には元気で善い歳が迎えられるようにとの他人への愛を教えられます。

今年一年をふり返り、自己の行為に万物への愛や木々の思いと対話出来たか考えて見ようではありませんか。反省は自然が人間に教えてくれた知恵のように思えてなりません。

教員・職員が皆で力を合わせ『学び合い、教え合う学園へ』 第48回学園教育充実研究会開催

第48回学園教育充実研究会(大学短大の部)が9月12日、建学記念講堂小ホールを主会場に開催された。本会は、同名の委員会主催による、本学園教職員のための研修大会である。

本研修大会は昭和44年の発足以来、学園の全教職員が集い、合同で研修を行う大会であった。しかし今日、それぞれの学校が成長・発展を遂げ、教職員が取り組むべき課題も異なってきた。このことを踏まえ、本年度より大会を「大学短大・事務局職員」の部、「高校の部」、「幼稚園の部」に分け、学校別に開催することとした。8月6日に幼稚園の部、8月10日に高校の部が実施され、その締めくくりとして9月12日に大学短大・事務局職員の部が開催された次第である。



関口修学園長の挨拶

本年度は、大会における学園共通のテーマとして、「学び合い、教え合う学園へ」という言葉を掲げた。「学び合い」は今日の学校教育改革の鍵概念である。これには、教育という営みにおいては、学ぶ者のみならず、教育に携わる全ての者が互いに補い合いながら、共に成長していかなければ

ならないという趣旨が込められている。大学短大の部の研修大会もこのテーマの下に、各種の報告会、勉強会が開催された。

午前中は、自己点検・評価委員会と共同で、教育・業務の中間報告会が実施された。これは、各学科部署による「年度計画及びPDCA実施状況」の報告会である。各組織の長が登壇し、現在までの教育・業務の実施状況を報告した後、会場の教職員と意見交換を行った。すべての発表について、活発な意見が出され、学園の今後の在り方に向けて、充実した討議が行われた。

午後は、教員の部と事務局職員の部に分かれ、各々で分科会を行った。教員の部においては、「学び合い」という本大会の趣旨に基づき、同僚教員による教育実践報告が行われた。次のように、分科会を第1部、第2部に分け、各々で2つの発表が並列実施された。

- 1-1「コミュニケーションを中心とした国家試験対策について」(石田智宏准教授)
- 1-2「書く指導の取り組み」(山上裕子講師)
- 2-1「アセスメントに基づくクラス集



真剣な質疑応答



活発な意見交換

会の効果的な実践—学生のキャリア形成を視野に入れて—(京免徹雄講師)

2-2「大学生の発達障害と支援について」(笹田琴美講師)

いずれのテーマも、多くの教員が関心を寄せるものであり、参加した教員は、皆、真剣に耳を傾け、活発に意見交換を行った。

事務局職員の部では、「学生の満足度に関するアンケート調査」(平成20年度に実施)の結果を踏まえて、「事務局職員の学生に対する対応について」、「学び易い環境について」という2つのテーマを設定し、小グループに別れてのディスカッション、それを踏まえての全体討議が行われた。普段直接聞くことの少ない学生の声を、皆が真剣に受け止め、今後の改善に向けて意識を共有した。

分科会の後、全体会が行われ、分科会の討議内容の一部が紹介された。最後に関口修学園長から「教員・職員が皆で力を合わせて『学び合い、教え合う学園へ』を実現しよう」との講評があり、学園の一人ひとりの教職員が成長を目指し、互いに切磋し続けることの大切さを確認し、本年度研究会を締め括った。

「エコな大学」総合8位 小規模大学部門は3位

NPO法人「エコリーグ」は、2011年度に全国の大学が実施した環境対策を評価した「エコ大学ランキング」を発表、本学が総合8位、小規模大学部門で3位に選ばれた。全国の781の大学・キャンパスに調査票を送付し184の回答を得た中から、エネルギーの効率、省エネ対策、二酸化炭素排出削減化などの項目を点数化したもの。緑川管財部長は「順位は下がったがこれからは学生と共に環境活動を続けたい」と語った。

平成24年度第2回教養講座 元JAXA宇宙飛行士・ 山崎直子氏 教養講座で講演

平成24年度第2回教養講座が10月29日建学記念講堂で開催され、元JAXA宇宙飛行士の山崎直子氏が「宇宙からのメッセージ」と題して講演し、約1800人が聴講した。青の訓練服で登場した山崎氏は、宇宙飛行士を志したきっかけや大学時代の米国留学の苦労などを語り、厳しい訓練や宇宙に行くまでの道のりや宇宙での生活についてエピソードを交えて解りやすく話した。



「何事にも挑戦することが大事」と山崎直子氏

院に進学。留学中に宇宙飛行士に応募し、落選したがあきらめずに挑戦し続けた。

山崎氏は「何事にも挑戦することが大事。自分の価値観や常識にとらわれず、視野を広く持つてこれからは進んでほしい」と話した。

質疑応答では、熱心な高校生から「宇宙船での生活で一番困ったことは何?」「お風呂はどうする?」等の質問に丁寧に答えていた。

大学・短大・附属高校同窓会 新役員決まる

大学・短大・附属高校の同窓会の総会が10月7日に行われ、各同窓会の会長が再任された任期はそれぞれ2年。議事では、学生・生徒への活動支援や会員間の親睦活動など7議案が承認された。

新役員は次の通り。

- ▼郡山女子大学同窓会
会長 名倉美恵子(再)
副会長 山崎 純子(再)
書記 郡司 尚子(新)
会 計 堀井たか子(再)
会計監査 斎藤 理沙(新)
庶 務 古川 裕子(再)
▼郡山女子大学短期大学部同窓会
会長 安斉 悦子(再)
副会長 村上よし子(再)
書 記 小池 晶子(再)
坂本テル子(再)
湯田 順子(再)
荒井 都子(再)
石澤和代子(再)
佐藤利枝子(再)

小林みゆき(新)
志賀 苗子(再)
仲村美紀子(新)

- ▼郡山女子大学附属高等学校同窓会
会長 佐藤 廣子(再)
副会長 市村 幸子(再)
白田 美幸(再)
書 記 遠藤 幸子(新)
渡部 春香(新)
阿部山久能(新)
会 計 澤井美恵子(新)
鈴木 真美(再)
会計監査 岩谷まり子(新)

本宮市長と懇談会

本学・本学短期大学の学生と高松義行本宮市長との懇談会が10月19日に本宮市役所で行われ、これからの本宮市の展望について意見交換を行った。

本学は本宮市の市民元気がいきいき応援「プラザ」えぽか」が開所以降、協定を結び、高齢者や子どもとのふれあい事業を展開してきた。

懇談会には大学人間生活学科4年鈴木明子さんら7人が参加した。高松市長が「日頃の協力に感謝しています」とあいさつした。自己紹介の後「住みよいまちづくり」のテーマで懇談した。



高松市長と懇談する学生たち

第65回全国高等学校バレーボール選手権大会

5年連続16度目の全国大会へ

1回戦で京都橘高校(京都府)と対戦

附属高校バレーボール部が最後の全国大会の切符を奪い返し、5年連続16度目の春高バレー出場を決めた。大会は1月5日からさいたま市(さいたまスーパーアリーナ)ほかで開催される。

回目の春高バレー出場を決めた。苦難を乗り越え、つかんだ全国大会への切符。田嶋和香業主将は「目標はベスト8、一戦一戦しっかり戦いたい」と力強く語った。大会への登録選手は次の14人。



決勝戦 第3セット スパイクを放つ目黒選手

今年の5月インターハイ県南地区大会でエース目黒優佳選手(2年)がケガで戦列を離れ、チームの調子も上がらず、インターハイ県予選も準々決勝で、県総体も準決勝で敗れるなど女王の座を失った。それでも田嶋和香業主将と岡部沙衣子選手の2人の3年生は目黒優佳選手の復活を信じてチームをまとめあげた。



優勝決定の瞬間

メンバー表	
名前	学年
田嶋和香業	3年
目黒 優佳	2年
高橋 愛未	2年
羽染美知佳	2年
郷 香穂理	1年
小林 由美	1年
慶徳 優菜	2年
古川 愛美	2年
須藤菜緒子	2年
藤田はるか	1年
上野美由紀	1年
吉田 真実	2年
赤石沢夏海	1年
岡部沙衣子	3年

郡山女子大学附属幼稚園 構内舗道環境改善工事

(放射線量低減処置工事前後結果一覧)

平成24年9月に実施した構内舗道環境工事の放射線量測定結果
*放射線量の数値はすべてマイクロシーベルト/h

地点名	事前測定	事後測定	事前測定	事後測定
	測定高1cm [μSv/h]	測定高1cm [μSv/h]	測定高50cm [μSv/h]	測定高50cm [μSv/h]
幼稚園入り口	0.48	0.17	0.45	0.19
園庭側通路	0.23	0.13	0.19	0.12
保育室入り口	0.16	0.12	0.16	0.15
なかよし通路	0.16	0.11	0.18	0.14
園舎裏側	0.18	0.14	0.18	0.17
なかよし広場	0.13	0.11	0.15	0.12

学びの旅 附属高校修学旅行



金閣寺の前で記念撮影



ゆば上げ、上手にできました



原爆ドームにて

平成25年度新役員決まる

大学学友会

- 会長 皆川好美(食栄・2年)
- 副会長 江田智子(食栄・2年)
- 副会長 佐々木結美(食栄・1年)
- 総務部長 佐藤綾香(人生・2年)
- 書記 滝口美奈子(食栄・2年)
- 書記 伊藤 希(食栄・1年)
- 書記 鈴木千夏(食栄・2年)
- 計 長沼美帆(食栄・1年)
- 計 大浦真美(食栄・2年)
- 庶務 大場美紅(食栄・1年)

- 文化部長 樽井真理(食栄・1年)
- 厚生部長 池田理咲子(食栄・2年)
- 短期大学部学友会
- 会長 高木真葵(食栄・1年)
- 副会長 樋口礼南(食栄・1年)
- 副会長 吉野友紀(文化・1年)
- 総務部長 常盤 綾(幼教・1年)
- 書記 白井美優(幼教・1年)
- 書記 橋本 茜(幼教・1年)
- 書記 網木 遥(食栄・1年)
- 計 会田美咲(食栄・1年)
- 庶務 片見志帆(食栄・1年)

- 体育部長 熊田桃子(幼教・1年)
- 文化部長 斎藤綾華(幼教・1年)
- 厚生部長 高野美菜(食栄・1年)
- 附属高校生徒会
- 会長 穂積春乃(食物・2年)
- 副会長 笹山彩花(普通・2年)
- 副会長 馬場美樹(普通・1年)
- 書記 森本智香(普通・2年)
- 書記 阿部かな(美術・1年)
- 計 塩澤佳奈(普通・2年)
- 計 石井亜弥子(普通・1年)
- 計 岡部 瞳(普通・1年)

●京都・広島で学んだこと

私たち第2学年は、10月15日から19日にかけて修学旅行に行つて参りました。特に私が印象に残っているのは、京都での班別自由行動です。京都の文化や住んでいる人たちに直接触れることができ、日本の歴史の重さについて改めて学ぶことができました。また、親元を離れ、友人と長期間過ごすということも初めてだった

●京都の食文化を学ぶ

私たち食物科2年は、修学旅行で3、4日目は食物科独自の日程で行動してきました。「ゆば八」でのゆば上げ体験や南禅寺の抹茶作法体験、宇治福寿園ではお茶の正しい入れ方や、伏見の大蔵酒造記念館の見学、京都依屋吉富ギルドハウスでの京菓子作品展示見学や歴史学習など、充実した学習の時間を過ごすこと

●東寺の立体曼陀羅に感動

音楽・美術科は3日目以降、奈良・京都の寺院を中心に見学しました。私の印象に残ったのは、東寺の立体曼荼羅でした。空海が唐から持ち帰った曼荼羅を立体化したものですが、美術史の授業でその存在は知って興味を持っていました。そして、実際に目にした時は、とても感動しました。一つ一つの仏像の存

ので、様々な経験を通して友情を深めることができ、高校生活の中で忘れることのない思い出となりました。

修学旅行に行くことができたのも両親や先生方のおかげです。感謝の気持ちを忘れずにこの経験を将来に向けての励みにしたいと思います。(修学旅行委員長 和泉 亜耶伽)

ができました。また、妙心寺での精進料理や万福寺での普茶料理、京都祇園の美登幸での京懐石料理など、さまざまな料理に触れ、体験することで、味はもちろん、色彩、盛りつけ、食器などについて学ぶことができました。旅行中の5日間、皆楽しく、仲良く過ごして、たくさん学ぶことができました。とても良い思い出になりました。(食物科 大沼 未琴)

在意義を知り、とても落ち着いた時間を過ごすことができました。夜はクラシックコンサートを鑑賞したり、静岡の楽器博物館を訪れたりして、音楽の勉強もすることができました。この修学旅行では、私のようにそれぞれが建物や仏像、景色の中に、心に残るものを見つけたのではないかと思います。(音楽科美術科 太田 美歌)

◆大学院・大学

「東日本大震災、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染を考える」
放射能についての正しい知識を理解することを訴えた。
(大学院・人間生活学研究科)



「東日本大震災の体験から」
震災体験による本大学生の意識、子どもに与えた影響、復興住宅などの研究結果を展示。
(家政学部・人間生活学科)



「手に入れよう健康生活」―食事を通して運動―
世代によって要求される、適切な食事量や運動量を4期に分けて考えた。(家政学部・食物栄養学科)



「レストランもみじ」
大学食物栄養学科と短大食物栄養専攻が合同で開設。真心を込めたお料理でお客様をもてなし、調理実習、集団給食の成果を示した。



◆短大

「新しい家庭生活をめざして」
学生の作品展示、手芸、染物小物と手作り菓子の販売に加えて「新聞バッグを作ろう」「福祉の現場で役に立つ小物を作ろう」などの4講習会を開催。(家政科・福祉情報専攻)



「復旧と復興を目指して」福島の子どもたちのために」
復旧と復興を目指して、幼児教育学科の学びの活動を発信した。
(幼児教育学科)



「災い転じて…」文化ノ底チカラ
3月11震災から1年半、今、復興に求められるのは文化による再生です。時と場合を問わず試練を乗り越えてきた人間の営みを文化の面から考えた。
(文化学科)



「新しい家庭をめざして」
学生の作品展示、手芸、染物小物と手作り菓子の販売に加えて「新聞バッグを作ろう」「福祉の現場で役に立つ小物を作ろう」などの4講習会を開催。(家政科・福祉情報専攻)



「レッツエンジョイフットサル大会」
フットサルのことを何でも知ってもらい、好きになってもうろうために簡単なゲームをした。(フットサルクラブ)



「着付け体験」浴衣、着てみませんか?」
希望者に浴衣の着付けを行った。
(着物クラブ)



「着付け体験」浴衣、着てみませんか?」
希望者に浴衣の着付けを行った。
(着物クラブ)



「復旧・復興を目指して」 第66回 もみじ会開催 10月6日(土)・7日(日)



学園での日常の研究、学習の成果を展示・公開した「第66回もみじ会」。地域と交流を深めた10月6日、7日の2日間を紹介する。



「より美しく、より華やかに」
2年連続11回目の全国大会出場
の躍動感あふれる演技を披露した。
(新体操部)



普通科をはじめとする美術選択者の授業において制作した作品を展示した。
(美術部)

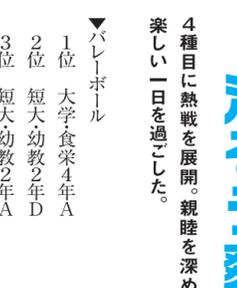
◆大学・短大校友会

校友会は、茶道部、食品化学研究クラブ、フットサルクラブ、サッカー部、ナチナルスタイル部、手芸同好会、パドミン同好会、演劇同好会、詩歌同好会などが活動の発表を行った。
【二期一会】
慎思庵に6席を設け、薄茶点前を披露。
(茶道部)



◆招待

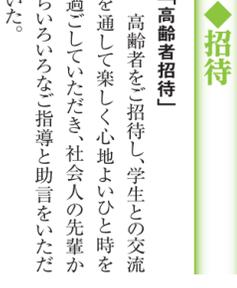
「高齢者招待」
高齢者をこ招待し、学生との交流を通して楽しく心地よいひと時を過ごしていただき、社会人の先輩からいろいろなご指導と助言をいただいた。
「婦人会招待」
郡山の婦人会を代表する皆様をお招きし、人生の先輩としてご指導、ご助言をいただいた。
「同窓会館設立のためのバザー」
大学・短大・高校の三同窓会が合同で開催。



健康を目指して 一流そう爽やかな汗

4種目に熱戦を展開。親睦を深め、楽しい一日を過ごした。

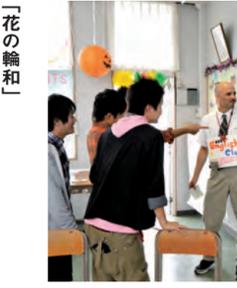
- ▼バレーボール
 - 1位 大学 食栄4年A
 - 2位 短大 幼教2年D
 - 3位 短大 幼教2年A
- ▼長縄跳び
 - 1位 短大 幼教2年A
 - 2位 短大 幼教2年B
 - 3位 短大 幼教2年A
- ▼大学 食栄1年A & 1年B
- ▼ドッジボール
 - 1位 大学 食栄4年A
 - 2位 短大 幼教1年C
 - 3位 大学 人生1チーム
- ▼短大 幼教2年A
- ▼障害物リレー
 - 1位 大学 人生IIチーム
 - 2位 短大 生芸 & 音楽
 - 3位 大学 食栄3年A



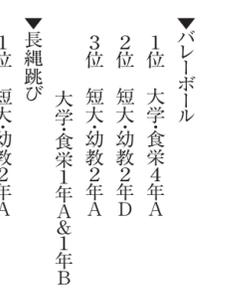
◆附属高校
教科や学年組織、生徒会(部活動)で成果が発表された。
「さんぐい食堂」
集団調理実習の学習成果発表を兼ねた食堂は今年も大繁盛。
(食物科)



ピアノ、管楽器、声楽のアンサンブル演奏
(音楽科)



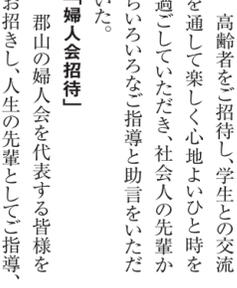
英語部の活動のKGC Jonathanのポスターや学校イベントの掲示をした。また、クイズや絵本コーナーで英語に親しんだ。
(英語部)



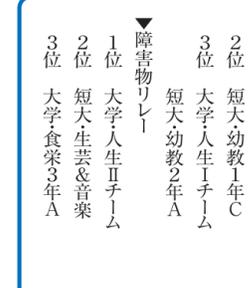
英語部の活動のKGC Jonathanのポスターや学校イベントの掲示をした。また、クイズや絵本コーナーで英語に親しんだ。
(英語部)



英語部の活動のKGC Jonathanのポスターや学校イベントの掲示をした。また、クイズや絵本コーナーで英語に親しんだ。
(英語部)

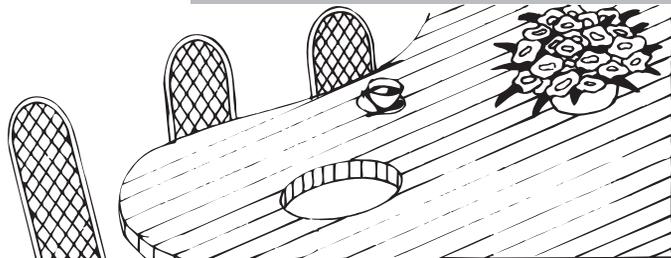


英語部の活動のKGC Jonathanのポスターや学校イベントの掲示をした。また、クイズや絵本コーナーで英語に親しんだ。
(英語部)



ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



「片雲の風に誘はれて」

渡辺 秀行

ある友人が、20年前にこんな話をした。“夏休みを利用して、家族で全国の旅に出ている”と。子供が生まれ、奥さんと話し合った結論であった。1年間、家族会議で詳細に計画を立て、夏休みに出かける。その旅が終わると、また、次の旅への家族会議が始まる。その話から、私たち仲間も“全国制覇の旅”を計画した。幼小



旅先にて

まれることになる。月日は流れ、あの友人が、私たちと一緒に札幌に行き、札幌の大学で学んでいる娘さんと合流するのが、家族旅行の最後と告げた。子供たちが成長し、時間を共有するのが難しくなり、子供は親離れ、親は子離れの時がやってきたと感慨深げに語っていた。でも、それは、家族一人ひとりの新たな旅の始まりでもある。

私は、数年前から一人のんびりバイクの旅を始めた。“風”を体に感じながら走る爽快感は、車や列車とはまた別の楽しさがある。仲間との旅では、数県を残すのみとなったが、バイクの旅は始まったばかり。芭蕉が“漂泊の思ひやまず、片雲の風に誘はれて…”と綴ったように、私も、“風”の誘いが断り切れないようだ。

(附属高等学校教諭)

「情報処理インターンシップに参加して」

佐藤 梨紗



筆者

8月26日から30日、そして発表会を含めた5日間、株式会社エフコムで情報処理インターンシップの実習を行いました。この授業を取った理由は、就職する前に実習を通して企業の雰囲気に触れ、そこから一つでも多くのことを学びたいとの思いがあったからでした。プレゼンテーションの方法やビジネスコミュニケーション、マナーの重要性を事前学習として学び、実習が始まりました。

私は、パソコン教室のインストラクター補助、総務事務、営業事務を担当しました。一番印象に残ったのは総務事務の時に担当の方に「どのよ

うな事務がしたいの」と尋ねられたことでした。その時に事務職は様々な部署があり、その中での役割や業務内容にも違いがあるということに気付くことができました。実習を通して感じたのは、学生生活では感じることのない責任の重さでした。インストラクター補助では生徒さんの学習の手伝い、総務事務ではパソコン入力中心の作業、営業事務では取引先に送る封筒に住所印を押すなどの作業を行いました。いずれも責任を伴うのでとても緊張しました。

このインターンシップは、時に失敗もありましたが、学内の授業では得られない様々な体験を通して、企業の仕組みを理解することができ、得るものが大きかったです。

(短大家政科 福祉情報専攻2年)

「高校生活を振り返って」

采女 真弥



筆者

私は、幼い頃から音楽が大好きで、附属幼稚園で楽しい毎日を通り越して、これからずっと、将来は音楽に関係する仕事に就くことが夢でした。その夢を実現させるための通過点として附属高校音楽科に入学し、ピアノを専攻しました。また、入学後にはマーチングバンドに惹かれ、音楽科の学習と部活動の両立を目指した高校生活がスタートしました。

入学時、音楽科の学習と部活動の両立を安易に考えていた私は、その難しさに愕然としました。部活動ではドリルはおろか、管楽器の経験もまったくなかったので、毎日の練習についていくだけで精一杯でした。その

分専門のピアノの練習が疎かになってしまったこともあり。しかし、3年間を通して、物事を行う優先順位や上手な時間の使い方を学ぶことができました。

3年生になると部長という大変重要な役割に就くことになりました。部員をしっかりとまとめるリーダーになれるかとても不安でしたが、みんなの表情をよくみて、みんなの考えや思いをよく聞き、一人ひとりのことをよく考えることができる女性になることを目標に今まで頑張ってきました。進路を考えなければならぬ時期になると、部活動との両立は一層大変になりましたが、マーチングバンド部の仲間たちが支えてくれ、無事に乗り越えることができました。

たくさん笑い、時には涙を流したこともありましたが、そのたくさんの思い出や心強い仲間たちは私の一生の宝物であり、附属高校で学び青春時代を過ごせたことは、私の最高の誇りです。

(附属高等学校音楽科3年)

私の本棚

郡山女子大学短期大学部

准教授 會田 容弘

それは大変でしたよ。地震で最大の被害は本棚。家の本棚は倒れて通路を塞いだので、本を踏みつけて中に入り。座っていたら、後頭部に本棚が倒れてきて怪我してましたよ。いなくてよかったです。たまたま置いてあったノートパソコンの液晶が割れました。本棚は凶器ですよ、もうひとつ、研究室にはスチール製の棚に本を入れてました。全国から集まった発掘調査報告書。考古学の基本文献ですけど、

未曾有の大震災によって、大切な家族や住宅、仕事など生活の基盤を失い、多くの人が過酷な境遇にある。また、放射能によって、思い描いていた将来設計が大きく狂ってしまった人もいる。先日、岩手や宮城の沿岸部を訪ねる機会があった。大船渡では、復旧工事作業員で超満員の民宿で、友人

初めの避難場所の駐車場から高台へと再避難し、全員助かった。一方、石巻市の大川小学校は、河口にあり、同じような位置関係だが、多くの児童・教職員の人命が失われた。災害に対する日ごろの備えと、リーダーの判断がその境目を分けた。女川では、引き波で横倒しになった鉄筋コンクリートの

生活診断室

シリーズ ②

大震災の爪痕から

郡山女子大学 短期大学部 教授 村田 清

達と雑魚寝をした。翌日訪れた陸前高田市では、壊滅した市街部、流される前は7万本あったという松原が、以前の様子が想像できないほどの光景になっていた。有名になった奇跡の一本松は取り除かれて、来年は希望のモニュメントとして復活することになっている。

でも、その惨状を見て言葉が失ったが、今、各地で少しずつ復興の歩みが始まっている。さて、わが福島は放射能という見えない恐怖と、見えない将来に多くの県民が、いまだに生活を脅かされ続けている。備えあれば憂いなし。安全安心な生活を取り戻したい。

それが、ぐにあって遺物の入ったコンテナに倒れ掛かっていたんです。震災のあとも、本の重さでぐにやーですよ。結局、その本棚に寄りかかられたコンテナはひっくりかえっちゃいました。中には笹山原遺跡から発掘してきた土器が復元して入ってたんですよ。それが割れちゃったんです。せつなく復元した土器がまた破片になっちゃった。悲劇なんでもんじゃないですよ。

もう、本なんかいらぬ。捨ててしまおうか。とも思いましたけど、結局、山形の実家に運びました。とりあえず、読みもしない洋書とかありましたよ。使いもしないだろうって本が、でもね…。

あれから1年半経ちましたけど、いつのまにか研究室の本が増えている。研究室に可動式物品棚をつくっても良かったら、また本が置けるなことで、買っちゃう。悪い性格ですね。

あれ、このコーナー本棚の話書くんじゃなかったの。えっ、本のことなの。こりゃまいったなあ。でもね、大事な本もあるんですよ。僕が考古学はじめてたきつかけの本。教えちゃいましょう。たかしよいち著「埋もれた日本」。児童書だけど、多分絶版。この本は大切だから、山形の実家の本棚に大切に…。保管したかなあ？どこに置いたっけかなあ。

”入賞おめでとう”

第64回
全日本合唱コンクール
東北支部大会

▼高校部門 Aグループ 金賞
郡山女子大学附属高校
▼大学の部 優良賞
郡山女子大学開成の杜
女声合唱団

第63回県南美術展

▼佳作
角田 小百合(短大・生芸2年)
柳沼 理穂(短大・生芸2年)
▼青少年奨励賞
捧 裕紀(高校3年)
杉山 萌(高校3年)

明るい選挙啓発ポスター
影山美沙さん(2年)1等
捧 裕紀さん(3年)が2等

県選挙管理委員会は、平成24年度の明るい選挙啓発ポスターコンクールの審査結果を発表した。

高校の部で2年の影山美沙さんが1等、3年の捧裕紀さんが2等に選ばれた。県内の小、中学校、高校1、20校から590人が応募した。2人の作品は全国の中央審査会に提出された。



福島県審査で1等に選ばれた影山美沙さんの作品

県高校生読書体験記コンクール

▼奨励賞 尾形 麻美(高校3年)

第7回西会津国際芸術村
公募展2012

▼大賞 「記憶の中の花」
柳沼 理穂(短大・生芸2年)
▼緑のかけ橋賞
「帰省」
須佐 祥子(短大・生芸2年)
「あたたかな日」
本田 理沙(短大・生芸2年)

平成24年度
妖精の絵コンテスト

▼一般の部 審査員特別賞
渡邊 裕理佳(短大・生芸1年)

第16回全国着物デザイン
コンクール

▼一般の部 「優秀賞」(金賞)
渡邊 裕理佳(短大・生芸1年)
▼高校の部
金賞 和田 彩伽(高校3年)
銀賞 石國 巳碁(高校3年)
影山 美沙(高校2年)
入選 吉田枝里可(高校2年)
太田 美歌(高校2年)

第47回弘法大師奉賛
高野山読書大会「推薦」(賞)

高橋 香奈(短大・生芸1年)
長尾 愛梨(短大・生芸1年)
八木沼 楓(短大・生芸1年)
渡邊裕理佳(短大・生芸1年)
渡邊 楓(短大・生芸2年)

「えむぞつくん健康レシピ大賞」で
菅野真美さん(短食2年)が佳作

株式会社ドクターズプラザ(本社、東京)が季節の素材を使った「品料理

を募集した、第3回「えむぞつくん健康レシピ大賞」で短大・食栄2年菅野真美さんの作品「さばと塩こんぶの野菜炒め」が全国443点の応募の中から佳作に選ばれた。
今回の受賞作品をもとにしたレシピ集が来年2月に発行され、全国の病院や調剤薬局、食品メーカーなどに配布される。



入選した菅野真美さん

第31回県総合文化祭
平成24年度表彰

▼優秀指導者
青木 麗菜(附属高等学校教諭)
▼優秀個人
永崎 望未(高校3年)
▼ポスター原画最優秀賞
杉山 萌(高校3年)

第56回郡山市総合美術展

▼洋画の部
市長賞 柳沼 理穂(短大・生芸2年)
美術賞 角田小百合(短大・生芸2年)
奨励賞 須佐 祥子(短大・生芸2年)
彫塑工芸の部
美術賞 本田 理沙(短大・生芸2年)

第41回マーチング東北大会
バトントワリング東北大会

▼高校の部 銀賞

第60回福島県短歌祭
大学の部で伊東真由美さん
(短食2年)が会長賞

▼福島県歌人会 会長賞
伊東 真由美(短大・食栄2年)
伝う汗脇目もふらず走る君
光る背中がとても眩しい



会長賞を受賞した伊東真由美さん

▼第60回福島県短歌祭実行委員会
会長賞 佐藤 綾香(短大・食栄1年)
空高く伸び行く木々の鮮やかさ
暗い心に光届ける

▼福島県歌人会賞(佳作)

伊東 南海(短大・食栄1年)
尾形 美咲(短大・食栄2年)

大学弓道部
念願の2部昇格

大学の弓道部は、所属する東北学生弓道女子3部リーグ戦で優勝、青森県の弘前大学で行われた、2部との入れ替え戦に出場、弘前大学、岩手県立大学、宮城教育大学を撃破して見事優勝、念願の2部昇格を果たした。

最下位4部リーグから這い上がり、あと一歩で届かなかった2部によるやく到達。いよいよ1部昇格への光が見えてきた。弓道部員の活躍にご声援を！



練習に励む弓道部

第20回
東北高校新体操選抜大会

▼個人総合
4位 矢作あかり(高校1年)
▼種目別
フープ 5位 矢作あかり
リボン 4位 矢作あかり

県高校新人体育大会
剣道競技

▼団体 2位(東北大会)出場
▼個人 8位 星 成美(高校2年)
優秀選手 星 成美

第21回プリンススポウルに
創部7シーズン目で初出場
3位に輝く

本学は神戸市で11月24日に開かれた、タッチフットボールの日本一を決める東西大学タッチフットボール王座決定戦「プリンススポウル」に創部7年目に東北勢としては初めて出場した。

大会には東西日本の上位2チーム

ずつに出場権が与えられ、関東地区の強豪を破った本学は第一代表として武庫川女子大(西日本2位)と対戦したが、12・27で敗れた。3位決定戦では21・20で成城大学(東日本2位)に競り勝ち3



全国3位に入賞した本学リベルタース

先輩を訪ねて



(左から) 佐藤 菜里さん ●平成22年度短大音楽科卒業
菅 愛香さん ●平成18年度短大音楽科卒業
根本 美幸さん ●平成14年度短大音楽科卒業
曲山 温子さん ●平成18年度短大音楽科卒業

根本さんたちが勤務しているのは、並木にある(株)ヤマハミュージック東北郡山店。それぞれ、声楽、ピアノと専攻は違いますが、「音楽が好きで、音楽に携わる仕事に就きたかった」と声を揃えておっしゃいます。職場では主に教室業務に携わり、生徒の募

位に輝いた。
渡辺麻衣主将は「とても楽しくできて満足です。4年間続けてこれられて良かった。これからも続けたい」と喜びを語った。増子智美(O.F)、渡辺智子(D.F)の両選手が優秀選手に選ばれた。

赤い羽根募金で
174,815円の善意

大学・短大友会と附属高校生徒会は、助け合い運動の一環として学内で募金活動を行い、174,815円の浄財を得た。11月16日、大学学友会会長皆川好美さん、短大友会会長高木真葵さんと附属高校生徒会長長の穂積春乃さんの3人が県共同募金会郡山支会へ寄託した。



募金を手渡す3人の代表

集やレッスンの管理、イベントの企画運営などを担当しているそうです。短大時代の思い出を伺うと、「先生に恵まれて、たくさんことを学ぶことができ、それが今の仕事に活かされていると思います。今でも、恩師や当時の仲間とは良いお付き合いが続いているとか。また、「開成の杜女声合唱団に入っていて、ゲリラライブをしたり、楽しかったですね。仲間と何かをやるというのは学生時代しかできないことだと思います」と、当時は振り返ります。

最後に、「自分たちがいかに恵まれた環境の中で学んでいたかということが、卒業してからわかりました。ですから、在校生の皆さんも、それぞれに充実した学生生活を過しただきたいですね」と、あたたかいエールをいただきました。

学園創立66周年記念 第178回芸術鑑賞講座

「斎藤清版画展」

学園創立66周年記念、第178回芸術鑑賞講座「斎藤清版画展」が10月2日から7日まで建学記念講堂ギャラリーで開催され、多くの美術愛好者で賑わった。

斎藤清氏は明治40年会津坂下町で生まれ、父親の関係で4歳の時故郷会津を離れ、北海道夕張へ移住。看板店で働き、20歳で独立。勤勉意欲から上京し、看板業に従事しながら独学で油絵を学ぶ。多くの公募展に出品し、入賞を果たす。安井曾太郎氏の木版画作品に触発され、48年若手日本人芸術家の支援を目的とする、サロンド・プランテン展において《ミルク》が1等賞を獲得するなど斎藤清の名を世界に広め、数多くの

荣誉に輝き90歳の生涯を終えた。

展示会には斎藤画伯の故郷、会津地方をモチーフにした「会津の冬」や、「会津の柿」をはじめ、パリや京都、鎌倉など人気の高い作品42点が展示され、学生、生徒はもとより多く市民が訪れ、一点一点、熱心に鑑賞していた。



説明するやないつ町立斎藤清美術館の杉本明郎さん

学園創立66周年記念 第179回芸術鑑賞講座

劇団四季ミュージカル「ガンバの大冒険」

本年度最後となる第179回芸術鑑賞講座、劇団四季ミュージカル『ガンバの大冒険』が11月13日、建学記念講堂で行われた。

「海が見たい!」、下町から港へとやってくるネズミのガンバは、船乗りネズミたちのパーティに紛れこんだ。そこへ、傷付いたネズミが助けを求めやってくる。故郷の島が白イタチのノロイに占領されてしまったというのだ。その名を聞いて恐れおののくネズミたち。

しかしガンバは助けに行く決心をした。小さなネズミたちが船に乗り旅をし、白イタチのノロイと戦うなど迫力あるシーンに、生徒たちは酔いしれていた。



劇団四季ミュージカル

「モバイルサイトをご覧ください」

携帯電話からQRコードを読み込むことで、モバイルサイトへアクセスできます。QRコード読み取り非対応の方は、左記URLを入力することでモバイルサイトへアクセスできます。
<http://www.koriyama-kgc.ac.jp>



幼稚園運動会

日頃の練習の成果を発揮

今年も、学園第一体育館で開催された運動会。かけっこや縄跳び、玉入れ、ダンス、リレーなど、学年ごとに様々な競技に挑戦し、友だちと協力したり、競い合ったりしていた。そうした中、園児一人ひとりが日頃の練習の成果を発揮し、たくさん身体を動かし、汗をかくて楽しんだ。お家の方にも協力いただき、一緒に身体を動かして活動することができた。年長組の子どもたちは、一人ひとりの役割を持ち、自信を持って係の仕事を行うことができた。



白勝て! 赤勝て!

運動会を通じて、たくさん笑顔が見られ、また一つ成長した子どもたちの姿を感じた。

「シーフード料理コンクール」 脇姫香さん(短食・2年)が入賞

新鮮な感性と豊かなアイデアを活かしたオリジナルレシピを募集した全国漁業協同組合連合会主催の第13回シーフード料理コンクール・プロを目指す学生部門で短大家政科食物栄養専攻2年、脇姫香さんの作品「冷し茶碗蒸し トマトあんかけ」が入賞した。

全国から91校、1943件の応募があった。書類選考を通過した8人が12月2日、東京で行われた実技審査に進み、脇姫香さんの作品が入賞した。



脇姫香さんの作品「冷し茶碗蒸し トマトあんかけ」

「リサイクルももつたない」 キャンペーンでボランティア

短大・幼児教育学科

郡山市主催によるゴミゼロキャンペーン「リサイクルを考えるステージ」が10月27日、イトヨーカドー郡山店で開催され、短大幼児教育学科の学生90人がボランティア活動の一環として出演、好評を博した。幼児教育学科の学生が日頃学んでいる表現活動での体験を活かし、ボイ捨て防止やリサイクルの大切さを訴え続けている。本年も、ハンドベル演奏やわらべうた、幼児体操などを通して「もつたない運動」のキャンペーンを盛り上げていた。



ボイ捨て防止やリサイクルの大切さを訴える

本学所蔵 紙上美術展 69

「五十鈴湖に姿を映す 春の清峰 安達太良」

故塩谷邦夫氏撮影

(有)正円堂元会長



昭和20年(1945)年頃の開成山公園南側から安達太良を撮影したもの。湖面に映える安達太良。自然の営みの偉大さや素晴らしさを感じることができ作品であり、創学館1階に展示されている。

木もれ陽

在しているように思われる。

私たちは日頃さまざまな物や物事を見て過(か)しているが、単に過ぎ去っていく映像として傍観していると大切なことを見えない場合がある。真に大切なものを見るためには、自分のこととして物を見ること、場合によっては、物と言葉の関係が遊離(あな)してしまうほどの深い観察も必要であろう。

本学園には「自然を凝視(みつ)めて師としよう」という言葉があり、凝視することで見えてくる新しい世界があることを教示している。

あの震災から1年9ヶ月を経て本学園もまた新しい年を迎えようとしている。落ち着きを取り戻しつつあるが、未だ不安な現実と向き合っている。あるがままの現実をよく見ると、ということが最も身近な再生への起点になるかもしれない。(久)